お客様本位の業務運営に関する取組状況
（2022 年 6 月現在）

1．お客様の取引目的やニーズに合うような商品をお届けするように取り組みました。
人生 100 年時代を見据えた自助努力がこれまで以上に重要視されるなか、引き続き資産形成に資する商品提供を継続しました。

これらに対応する商品開発においては自社の運用リソースにとらわれることなく、積極的に社外の外部ファンドマネジャー等と協働し、投資家ニーズにあったベスト・プロダクトの提供に努めてきました。

① “楽天グローバル IPO 株式ファンド”の立ち上げ
世界の株式のうち、新規株式公開（IPO）から原則として 4 年以内の企業に投資するファンド。

② “楽天レバレッジ NASDAQ-100”の立ち上げ
日々の基準価額の値動きが NASDAQ-100 指数（米ドルベース）の値動きに対して概ね 2 倍程度となることを目指すファンド。

③ “楽天 J-REIT・オルタナティブデータ・ファンド”の立ち上げ
オルタナティブデータ（人流データ等）を活用して、高い収益成長が期待できる主に上場 J-REIT に厳選投資するファンド。

④ ブルベア型ファンドの立ち上げ
“楽天日本株トリプル・ベアⅤ ”
“楽天日本株 3.8 倍ベアⅡ ”

⑤ ラップ向けファンドの立ち上げ
“楽天・世界債券コア（為替ヘッジ付）ファンド＜ラップ向け＞”
“楽天・先進国低ボラティリティ株式ファンド（為替ヘッジあり）＜ラップ向け＞”
“楽天・先進国低ボラティリティ株式ファンド（為替ヘッジなし）＜ラップ向け＞”
“楽天・先進国債券アルファ戦略ファンド（為替ヘッジあり）＜ラップ向け＞”

⑥ 受賞歴
・R & I ファンド大賞 2022
【投資信託／バランス型（株式・REIT 中心）最優秀ファンド賞】
【NISA／バランス型（株式・REIT 中心） 最優秀ファンド賞】
楽天・インデックス・バランス・ファンド（株式重視型）
・第 7 回「楽天証券ファンドアワード」
最優秀ファンド
【新興国株式部門】 インデックスファンド
楽天・新興国株式インデックス・ファンド
【バランス（固定配分）部門】 アクティブファンド
楽天・インデックス・バランス・ファンド（均等型）

・リフィニティブ・リッパー・ファンド・アワード・ジャパン 2022
最優秀会社賞
【投資信託部門】ミックスアセット部門
楽天投信投資顧問株式会社

加えて、長らく続く国内の低金利環境のなか機関投資家等の運用ニーズに応えるため、当社では公募投信に加えて複数の私募投信による運用を継続して行っております。

2．KPI の達成度合い

① 積立投資向けに提供しているファンドの純資産総額の推移

対象ファンド：楽天・全世界株式インデックス・ファンド
楽天・全米株式インデックス・ファンド
楽天・インデックス・バランス・ファンド(株式重視型)/(均等型)/(債券重視型)
楽天・資産づくりファンド(のんびりコース)/(じっくりコース)/(なかなかコース)/(しっかりコース)/(がっちりコース)

2021 年 6 月末時点：423,225 百万円
2022 年 6 月末時点：807,784 百万円

② 動画配信サイトや SNS における情報発信件数

・当社公式 Twitter アカウントにおいて、より多くの投資家の皆様に当社の活動を知っていただけるよう、引き続き、投資信託についての情報発信やキャンペーン活動を行いました。
情報発信件数：135 本
キャンペーン活動件数：2 本(夏の Twitter キャンペーン、資産運用応援キャンペーン)

・当社公式 YouTube チャンネルにおいて、当社の商品についての紹介動画等を公開しております。
動画本数：7 本、登録者数：1,320 名、合計視聴回数：49,357 回(2022 年 6 月末時点)

・投資家の皆様と双方向で意見を取り交わすことを目的としたサイト「楽天バンガード HEADS」にて、「楽天・バンガード・ファンド」シリーズの情報を掲載すると共に、コラムの掲載や投資家の皆様から寄せられた疑問・質問に対する回答、運用シミュレーターの提供、等のサービスを引き続き実施しています。

③ インデックス型公募ファンドの手数料率の推移

対象ファンド：公募ファンド（ラップ専用ファンド、ETF は除く）。
2021 年 6 月末時点：0.176%
2022 年 6 月末時点：0.172%

3．フィデューシャリー・デューティーの実践に向け、以下の活動を行いました。

① コロナ禍においても資産形成の継続性が途絶えないよう、引き続き、BCP（事業継続計画）の一環として、リモート業務のインフラを強化すると共に、顧客情報の漏えいを防止すべくセキュリティを堅牢化する等、社内体制を整備しました。

② 販売会社と協働し重要情報シート作成に向けた情報提供を行い、商品ごとに当社がターゲットと

する顧客層を明確にすることで、わかりやすい情報提供に努めました。

③　当期間より、より知見のある監査法人及び弁護士の協力を得て、お客様本位の業務運営に関する基本方針に沿った内部管理態勢が構築・運用されているかについて見直しを行い、当該態勢の評価及び改善等を行いました。

④　上記協力のもと、❶過去、利益相反に該当すべき取引がなかったかを遡って検証し、あらためて該当性の判断について問題がなかったことを取締役会に報告しました。また、❷ファンド組成時においてお客様本位の観点から検討すべき事項を明確化し、当該事項に関する会議体における意見表明を確実に行い、その証跡が議事録、資料として保存されるよう仕組みを整備しました。

⑤　複雑又はリスクの高い投資信託につき四半期に一度、販売会社から苦情や問い合わせについての情報を収集し、情報発信の際の判断素材とし、また、投資信託の新たな組成において参考にしました。

⑥　開示書類において、苦情や問い合わせのあった事項等については、わかりやすい表現に変更しました。

・ブルベア型のファンドの目論見書において、当該ファンドが一般的に中長期の投資に向かない（比較的短期間の投資に向いている）旨の追記を行うとともに、基準価額の変動に係る事項について、内容の拡充及びより分かりやすい記載・表現へ変更しました。

・目論見書における投資リスクの説明に関して、流動性リスクにつき、どのような状況で顕在化する可能性があるか、解約請求に対する制約等があるかを順次追記しました。

⑦　当期間より、社内規程にて、お客様本位の業務運営に関する諸原則の責任主管部署を明確にしました。

⑧　業務知識の充実や法令諸規則、及びお客様の本位の業務運営に関する諸原則等の周知のための社内研修を実施しました。

なお、金融庁が 2017 年 3 月 30 日に公表し、2021 年 1 月 15 日に改訂した「顧客本位の業務運営に関する原則」の原則２～７（これらに付されている（注）を含みます）に示されている内容と当社の取組方針及び取組状況の対応関係につきましては、別紙の対照表をご参照ください。

以　上

【別紙】

「顧客本位の業務運営に関する原則」の原則2～7(これらに付されている(注)を含む)に示されている内容と取組方針及び取組状況の対応関係		
顧客本位の業務運営に関する原則	当社のお客様本位の業務運営に関する基本方針	取組状況における該当箇所
【顧客の最善の利益の追求】		
原則2	1. 資産市場と資産運用手法に対する的確な理解のもとに、お客様の最善の利益のために行動します。 第一項目 2. お客様のニーズを理解し、ベスト・プロダクトによる最善の便益の提供を目指します。 第二項目 4. お客様の利益に他の利害が優先する可能性を徹底的に排除すべく利益相反管理を行います。 第三項目 5.フィデューシャリー・デューティーを浸透させるべく常時活動します。	【3. フィデューシャリー・デューティーの実践に向け、以下の活動を行いました。】の①、③、⑦及び⑧
(注)	1. 資産市場と資産運用手法に対する的確な理解のもとに、お客様の最善の利益のために行動します。 第一項目、第二項目 2. お客様のニーズを理解し、ベスト・プロダクトによる最善の便益の提供を目指します。 第一項目 4. お客様の利益に他の利害が優先する可能性を徹底的に排除すべく利益相反管理を行います。 第三項目	【1. お客様の取引目的やニーズに合うような商品をお届けするように取り組みました。】に記載の商品
【利益相反の適切な管理】		
原則3	2. お客様のニーズを理解し、ベスト・プロダクトによる最善の便益の提供を目指します。 第二項目 4. お客様の利益に他の利害が優先する可能性を徹底的に排除すべく利益相反管理を行います。 第一項目	【3. フィデューシャリー・デューティーの実践に向け、以下の活動を行いました。】の④及び⑦
(注)	4. お客様の利益に他の利害が優先する可能性を徹底的に排除すべく利益相反管理を行います。 第二項目、第三項目	【3. フィデューシャリー・デューティーの実践に向け、以下の活動を行いました。】の④及び⑦
【手数料の明確化】		
原則4	3. 簡明な情報提供を行い、お客様のご判断をサポートします。 第四項目	【2. KPIの達成度合い】
【重要な情報の分かりやすい提供】		
原則5	3. 簡明な情報提供を行い、お客様のご判断をサポートします。 第一項目	【3. フィデューシャリー・デューティーの実践に向け、以下の活動を行いました。】の②、⑤及び⑥
(注1)	3. 簡明な情報提供を行い、お客様のご判断をサポートします。 第一項目、第二項目 4. お客様の利益に他の利害が優先する可能性を徹底的に排除すべく利益相反管理を行います。 第一項目	【3. フィデューシャリー・デューティーの実践に向け、以下の活動を行いました。】の②、④、⑤及び⑥
(注2)	末尾注記	お客様本位の業務運営に関する基本方針 末尾注記の通り
(注3)	3. 簡明な情報提供を行い、お客様のご判断をサポートします。 第一項目 4. お客様の利益に他の利害が優先する可能性を徹底的に排除すべく利益相反管理を行います。 第二項目	【3. フィデューシャリー・デューティーの実践に向け、以下の活動を行いました。】の②、⑤及び⑥
(注4)	3. 簡明な情報提供を行い、お客様のご判断をサポートします。 第一項目、第二項目	【3. フィデューシャリー・デューティーの実践に向け、以下の活動を行いました。】の②
(注5)	3. 簡明な情報提供を行い、お客様のご判断をサポートします。 第三項目	【3. フィデューシャリー・デューティーの実践に向け、以下の活動を行いました。】の②、⑤及び⑥
【顧客にふさわしいサービスの提供】		
原則6	2. お客様のニーズを理解し、ベスト・プロダクトによる最善の便益の提供を目指します。 第一項目 3. 簡明な情報提供を行い、お客様のご判断をサポートします。 第一項目	【3. フィデューシャリー・デューティーの実践に向け、以下の活動を行いました。】の②
(注1)	末尾注記	お客様本位の業務運営に関する基本方針 末尾注記の通り
(注2)	3. 簡明な情報提供を行い、お客様のご判断をサポートします。 第一項目、第二項目	【3. フィデューシャリー・デューティーの実践に向け、以下の活動を行いました。】の⑤及び⑥
(注3)	3. 簡明な情報提供を行い、お客様のご判断をサポートします。 第一項目	【3. フィデューシャリー・デューティーの実践に向け、以下の活動を行いました。】の②、⑤及び⑥
(注4)	末尾注記	お客様本位の業務運営に関する基本方針 末尾注記の通り
(注5)	5. フィデューシャリー・デューティーを浸透させるべく常時活動します。	【3. フィデューシャリー・デューティーの実践に向け、以下の活動を行いました。】の⑧
【従業員に対する適切な動機づけの枠組み等】		
原則7	5. フィデューシャリー・デューティーを浸透させるべく常時活動します。	【3. フィデューシャリー・デューティーの実践に向け、以下の活動を行いました。】の②、⑤、⑥及び⑧
(注)	5. フィデューシャリー・デューティーを浸透させるべく常時活動します。 6. 本方針に関わる活動状況を定期的に報告します。 第一項目	【3. フィデューシャリー・デューティーの実践に向け、以下の活動を行いました。】の③及び⑦